

## 斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！

7月中旬のイネ科雑草地等すくい取り調査では、斑点米カメムシ類全体の発生量は平年並～やや多く、内訳はクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシが多く、アカヒゲホソミドリカスミカメがやや多い状況でした。6月下旬の雑草地等調査では発生量がやや少ない～平年並でしたが、7月はクモヘリカメムシやホソハリカメムシなど大型のカメムシ類が多くなり、全体の発生量も増えています（表1）。

今年は梅雨明けが早く、気温が高めに推移したことから、クモヘリカメムシの飛翔移動が活発化し、水田への侵入増加が予想されます。今後は、越冬場所に近い中山間地はもとより、平地においても発生動向に注意が必要です。

水田内、畦畔及び水田周辺雑草の適正管理を徹底するとともに、1回目の薬剤散布後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、追加散布を行いましょう（表2）。

表1 イネ科雑草地等における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（7月11日～13日調査）

	斑点米カメムシ類 主要種合計	主要種の内訳			
		クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	アカヒゲホソ ミドリカスミカメ	アカスジ カスミカメ
令和4年平均値（頭）	297.6	46.8	7.7	185.5	57.5
平年値（頭）	229.3	17.8	3.5	108.2	99.7
平年比（%）	130	263	220	171	58
発生程度	並～やや多	多	多	やや多	やや少

(1)イネ科雑草地等30地点を調査 (2)頭数は成幼虫数の合計 (3)平年値は、平成24(2012)～令和3(2021)年の平均



写真1 斑点米（側部）

写真2 斑点米（頂部）

写真3 クモヘリカメムシ成虫(左)  
アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫(右)

表2 水稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤（令和4（2022）年7月20日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	RAC コード
ダントツ粒剤	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン	ネオニコチノイド	I:4A
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン		
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキサフロル	スルホキシイミン	I:4C
MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	シラフルオフェン	ピレスロイド	I:3A
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス		
クラブフロアブル	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール	フェニルピラゾール	I:2B

○防除対策については以下の情報を参考にしてください。

令和4（2022）年7月1日発表 植物防疫ニュースNo. 6 [斑点米カメムシ類の発生動向に注意しましょう！](#)  
平成25（2013）年4月発表 病害虫防除対策のポイントNo. 16 [斑点米カメムシ類の防除対策](#)

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター（@tochigi\_nousei）」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。



「栃木県農薬危害防止運動」実施中（6月～8月）

農薬を使用する際は、ラベルを読み上げ、正しく使いましょう。

